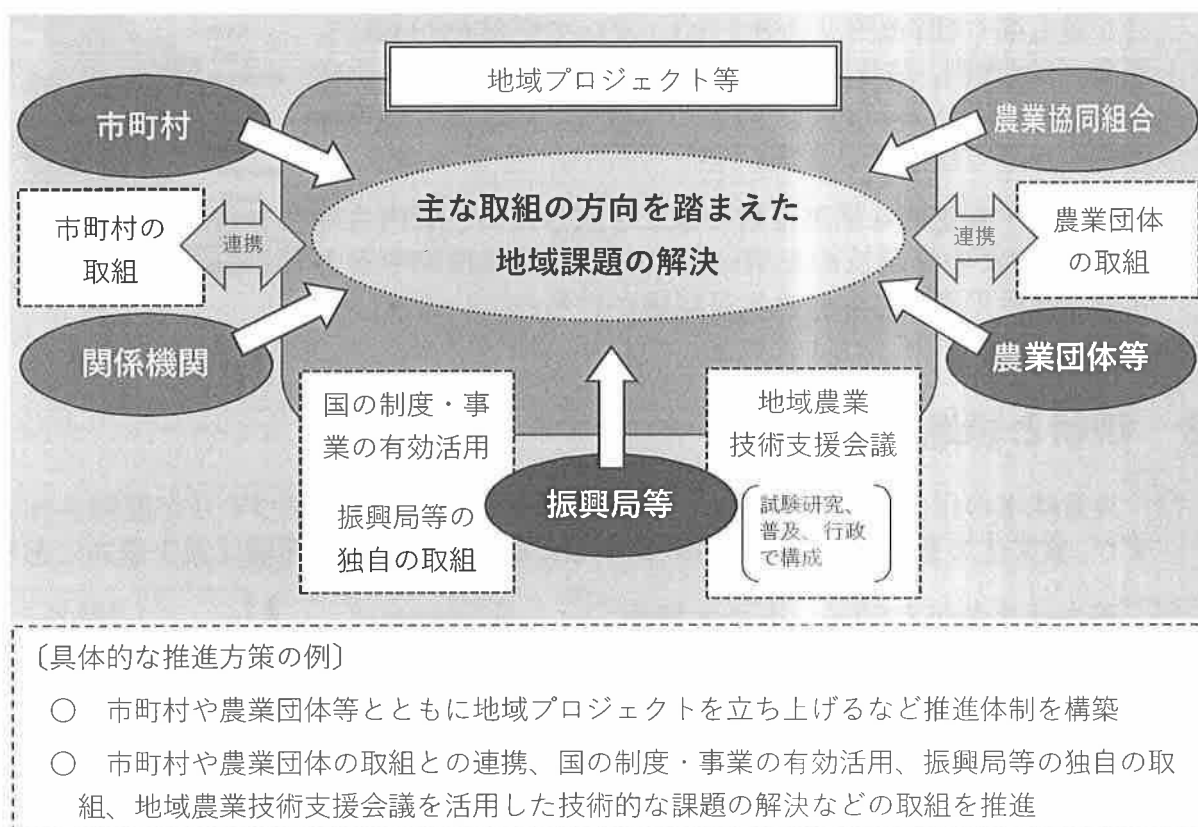


## 第4章 地域農業・農村の「めざす姿」と主な取組の方向

### 1 「めざす姿」の位置付け

この「めざす姿」は、振興局等が、農業者や市町村、農業団体等の地域関係者とともに、おおむね10年後を見据えた地域農業・農村の目指すべき将来像と、その実現に向けた主な取組の方向を検討し、明らかにしたものです。

この検討を通じ、地域関係者の間で、改めて取組の方向についての認識の共有を図ったところであり、「めざす姿」の実現に向けては、今後更に地域ぐるみで具体的な取組を検討し、推進することとしています。



### 2 地域農業・農村の「めざす姿」

振興局等を基本とした12地域の農業・農村の「めざす姿」とその実現に向けた主な取組の方向を提示します。



## 4 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

### (1) 水稲を基本とした複合経営の確立と農家所得向上

- 高品質な空知産米の安定生産と水稲作付面積の維持・確保に努めるとともに、空知産米の更なるブランド力向上と消費拡大を図ります。
- 低コスト・省力化技術の導入とともに、土地利用型作物を主体とした適正な輪作体系の確立や野菜・花きなどの園芸作物の安定生産を推進します。



管内各地域のブランド米



GI登録された夕張メロン

### (2) 担い手の育成と多様な人材の確保

- 優れた経営感覚を備えた農業経営者の育成と就農間もない農業者の早期経営安定化を図るため、経営力や技術力を向上させる実践的な研修や地域でサポートする取組を推進します。
- 雇用人材の確保に向け、他産業や他地域と連携し、農福連携や援農マッチングなど多様な人材の受入に向けた取組や、就業条件の整備など、雇用の改善につながる対策を進めます。



新規就農者などを対象にした研修会



サラリーマン層を対象にした援農ボランティア

### (3) 空知農業を支える基盤整備とスマート農業の推進

- ほ場の大区画化・汎用化、排水対策、地下かんがい施設の整備など、生産力強化、防災・減災につながる基盤整備を計画的に推進します。
- 関係機関との連携・協働体制を構築し、スマート農業に関する情報の共有や人材の育成などを進め、水田の水管理システムやロボット農機など、地域や個々の営農に応じたスマート農業技術の着実な導入を促進します。



基盤整備事業によるほ場の大区画化

#### 事例： 岩見沢市と新十津川町では、スマート農業技術の実証プロジェクトを実施



岩見沢市では、水稲の生産コストの削減と農家所得の増加を目指し、自動給水弁等の実証やセンサネットワークの構築などを進めるとともに、5G技術を用いて自動走行トラクターなどの遠隔監視制御の実用化に向けた実証も開始。



新十津川町では、家族経営をモデルとした高品質・良食味米生産を実現する技術体系の確立を目指し、自動化技術やリモートセンシングデータの活用などを実証。将来の担い手となる子どもたちに農業の魅力を知ってもらうための普及啓発活動も幅広く展開。

### (4) 持続可能で活力に満ちた農村の確立

- 食・滞在・体験等を提供する農村ツーリズムの推進など、都市・農村交流の促進により交流人口の拡大を図るとともに、農業の魅力を将来の担い手に積極的に発信し、持続可能な農村の構築を推進します。
- 多面的機能を支える地域の共同活動を促進するとともに、中山間地域等における生産活動を継続するための取組を推進します。



## 4 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

### ◎共通

#### ○担い手や多様な人材の確保の取組

- ・スマート農業技術などを活かし、農地や農業技術が次世代の担い手へ円滑につながるよう、農業技術のデータ化など地域関係者間の情報連携を図ります。
- ・女性の新規就農やパートナーの経営参画を推進します。
- ・地域農業を担う人材の確保に向けた取組と法人化や第三者経営継承に向けた検討を推進します。
- ・地域のリーダーづくりとともに、短期労働者とのマッチングや農福連携などの多様な人材の確保を推進します。
- ・農業や関連産業が就職の選択肢として選ばれる地域農業の情報発信を図ります。



女性単独就農予定の農業研修生と北海道指導農士

#### ○都市近郊農業を活かした取組

- ・地場産品の供給場所であり、地域住民と農業者との交流拠点となる直売所の維持発展を推進します。
- ・大消費地への供給を支える地域の農業と農産物の認知度向上とともに、消費者や食品加工事業者等のニーズに応える生産体制などの確立を推進します。
- ・農業体験や農産物の加工などを通じた関係人口の増加と農業者のやりがい活動を支援します。
- ・次世代につなげる食育活動により、幅広い年齢層へ向けた地場産品の理解促進を図ります。



交流拠点となる直売所

### ◎石狩北部

- ・良質米産地としての生産体制の維持を図ります。
- ・花きやミニトマトなどの園芸作物の生産を通じた、新規就農者や高齢農業者などの担い手の確保を推進します。
- ・田畑輪換などの輪作による土地利用型農業を推進します。
- ・区画整理などの土地基盤整備の推進を図るとともに、地域の主要な作物である水稻等における水田の自動給水、リモートセンシングなどスマート農業技術を活かした生産性の高い農業づくりを推進します。

### ◎石狩南部

- ・米、小麦などの大規模土地利用型農業やブロッコリーなどの園芸作物を組み合わせた複合経営に即した生産体制の維持を推進します。
- ・畑作物などにおける機械化や、可変施肥、リモートセンシングなどのスマート農業技術を活かした省力化、効率性の高い農業と規模拡大を目指す農業者への農地集積・集約化を推進します。
- ・共同化や法人化などによる畑作・畜産経営等の生産の維持拡大を図ります。

# 後志地域

## 1 地域農業の特色

後志地域は、日本海側気候に属し、全般的には春から夏にかけて温暖、冬はニセコリゾートのパウダースノーに代表されるように降雪が多くなっていますが、複雑な地勢のため、地域によっては気候が大きく異なり、それぞれの地域で特色あるブランドが展開されています。



温暖な気候により果樹栽培が盛んな地域で、りんごやおとうもろこし、ぶどうなどに加え、ミニトマト、パプリカ、花きなどの施設園芸も主要品目となっています。

比較的降雪が少なく、主に、水稻、すいか、メロン、生食用馬鈴しょやスイートコーンが栽培されています。



道内でも有数の豪雪地帯で、生食用馬鈴しょなどの畑作に加え、だいこんやにんじん、ゆり根、アスパラガスなどの全国屈指の産地であり、酪農や種馬鈴しょなどの生産が盛んな黒松内町、道内有数の良食味米生産地として有名な蘭越町などもあります。

## 2 現状と課題

後志管内の農家人口は、令和12年（2030年）までに約3割の減少が推計されているほか、管内の総人口についても大幅な減少が見込まれており、担い手を含む人材の確保が懸念されています。

さらに近年、エゾシカやアライグマなどの鳥獣による農作物被害が深刻化しています。

## 3 地域農業・農村の「めざす姿」

### 多様な人材の活躍によるブランド力ある後志農業

省力化や効率化とともに多様な人材が活躍することで、農家1戸当たりの生産量が増加し、地域全体の生産量が維持されています。また、高品質化・安定供給が更に進み、地域農産物のブランド力が一層高まっています。

#### <各地域のブランド強化の推進方針>

#### ○ 北後志地域【果樹産地の維持・発展、ミニトマト等の高品質・安定出荷】

果実類は、今後の温暖化傾向を見据えながら、新品種の導入などを行い、果樹産地の維持・発展を目指します。また、全道一の生産量を誇るミニトマトを中心とした野菜類の一層の高品質・安定供給を目指します。

#### ○ 岩宇地域【「らいでん」ブランドの強化】

水稻、すいか、メロンなどの高品質・安定生産を維持することにより、「らいでん」ブランドの強化を目指します。

#### ○ 羊蹄山麓・南後志地域【「ようてい」ブランドの強化】

生食用馬鈴しょやだいこん、にんじんなどのより効率的な生産体制の構築を図ることにより、「ようてい」ブランドの強化を目指します。

また、「らんこし米」ブランドを強化し、収益の向上・安定を目指します。

## 4 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

後志地域のブランドの強化を図るため、人材確保などの各種課題の解決に向け、次の取組を展開します。

### (1) 多様な担い手や人材の確保・育成

- 親子間継承などをより一層促進するための環境を整備します。
- 新規参入希望者に対する関係機関が連携した一貫的（相談、研修、就農、定着）な受入体制を整備します。
- 生産性向上や労働負担の軽減につながる営農支援組織の育成や協業化・法人化を推進します。
- 他産業を含めた関係機関の連携による人材マッチングの取組を推進します。

#### ◆「多様な人材の確保」に関する取組

振興局と関係機関において雇用人材確保に向けたマッチングシステムを構築し、地域が求める多様な人材（ニセコリゾートの外国人など）を確保する一助となっています。



### (2) 生産基盤等の整備と生産性・作業性の向上

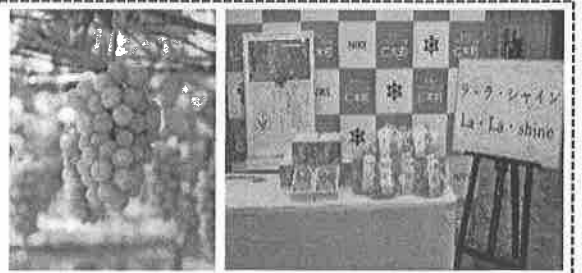
- 計画的な担い手への農地集積や、基盤整備による農地の大区画化を推進します。
- ドローンによる農薬・肥料の散布やハウスの環境制御技術など、地域実態に即したスマート農業技術の普及を推進します。
- スtockマネジメントの取組など、共同利用施設の老朽化対策を推進します。
- ジャガイモシストセンチュウのまん延防止など、病害虫の防除対策を徹底します。
- 低コスト・省力化技術の導入促進や新品種の普及・定着を図ります。
- 後志地域農業技術支援会議を活用し、地域農業が抱える技術的課題解決に向けた総合的支援を図ります。

### (3) 高付加価値化農業の推進

- SDGsの目標達成にも貢献するクリーン農業やGAPを推進します。
- ニセコリゾートなどの観光と連携した地域食材の活用を推進します。

#### ◆「高付加価値化農業の推進」に関する取組

全道の産地に先駆けて栽培が始まった仁木町産シャインマスカット「ブランド名：ラ・ラ・シャイン」は、クリスマスなどの需要期出荷による高価格販売を実現するとともに、管内でも販売されており、ニセコリゾート客からも好評を得ています。



### (4) 鳥獣被害防止対策

- 地域の農業被害の実態に即した効果的な被害防止対策を支援します。
- 外来生物であるアライグマの根絶に向けた捕獲を推進します。

# 胆振地域

## 1 地域農業の特色

○ 胆振地域は、東西に約150kmと長く、冬は温暖、夏は冷涼な気候を活かし、比較的経営規模は小さいものの、「北海道で採れて胆振で採れない農産物はない」と言われるほど、バラエティに富んだ生産が行われています。



○ 白老町以東に位置する胆振東部は、水稲が中心であり、高品質米である地域ブランド「たんとうまい」の主産地となっています。また、レタス・トマトなどの施設野菜、メロン、かぼちゃ、花き、和牛、ハスカップ、軽種馬の生産も盛んです。

○ 登別市以西に位置する胆振西部は、温暖な気候を活かして露地野菜、高級菜豆、果樹、水稲など多種多様な農作物が生産されています。また、酪農・畜産も営まれています。

項目	胆振	全道	摘要
一戸当たり平均経営耕地面積	13.2ha	23.8ha	平成27年
農家人口のうち65歳以上の割合	40.2%	33.7%	平成27年
新規就農者に占める新規参入者の割合	42.2%	22.1%	過去5年（平成27年～令和元年）累計値を基に算出

資料：農林水産省「農林業センサス」

北海道農政部農業経営課「新規就農者実態調査」

○ 農業従事者の高齢化が進んでいる地域である一方で、初期投資が比較的少ない野菜生産の好適地であり、生産者が主体となった就農受入体制の構築が進んでいることなどから、新規就農者に占める新規参入者の割合が高い地域となっています。

## 2 現状と課題

- 農家戸数の減少や高齢化により、耕作放棄地の増加や生産基の脆弱化、集落機能の低下が懸念されています。
- 一戸当たりの経営面積が拡大しているため、労働力不足が課題となっているほか、機械の大型化により生産体制の強化を図るなど、経営の効率化を進める必要があります。

## 3 地域農業・農村の「めざす姿」

### 「食の宝庫」を活かして稼ぐ いぶり農業

- 意欲ある担い手への農地集積・集約化により、農地が効果的に維持されており、経営の効率化が図られ、高い農家所得を実現しています。
- 地域が一体となった新規参入者の受入が進むとともに、農福連携などによる多様な人材の就農機会がつけられており、安定した担い手・人材の確保が図られています。
- ウポポイ（民族共生象徴空間）などの地域資源や様々な分野と連携し、バラエティに富んだいぶり農業・地域農産物の魅力が広く浸透しています。



## 4 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

### (1) 農家所得の向上

- 水稻の高密度は種・短期育苗など省力化栽培技術の導入や、自動操舵システムやUAV（無人航空機）を活用した肥料・農薬の散布など個々の経営実態にあったICTの導入により、更なる省力化と労働力の再分配を推進し、経営効率の向上を図ります。
- 担い手への農地集積・集約化や、生産性向上や高収益作物への転換促進につながる農地の大区画化・汎用化などの農業生産基盤整備を推進します。
- 畜舎（農場）への伝染性疾病侵入防止対策や家畜の損耗防止につながる取組を推進します。



基盤整備事業によるほ場の大区画化  
(厚真町)

### (2) 安定した担い手・人材の確保

- 各地域での研修・受入れ体制を有効活用し、地域間の連携を強化することで、胆振管内全体での地域への定住と農業への就業を推進します。
- 農業生産現場の労働環境改善や農福連携、外国人材の活用を進め、多様な人材を確保します。
- 多面的機能を支える共同活動への支援など、集落機能の維持向上につながる取組を進めるとともに、快適で魅力ある農村環境づくりを推進します。



多面的機能直接支払交付金を活用  
した植栽活動（洞爺湖町）

### (3) いぶり農業の魅力発信

- 観光と連携した地域食材の活用促進や、和牛、ハスカップ、メロン、有機農産物など地域を代表する製品のブランド力強化、消費者と農業者を結び付ける取組を通じて、地域農産物の魅力を効果的に発信します。
- 観光業など多様な主体と連携し、都市と農村の交流拡大を進めることにより、農業・農村に対する理解促進を図るとともに、地域の活性化を推進します。



都市部からの教育旅行を積極的に受け入れている「そうべつくだもの村」(壮瞥町)

# 日高地域

## 1 地域農業の特色

- 日高地域は、国内生産頭数の約8割を占める全国一の軽種馬生産をはじめ、稲作、施設園芸や酪農、肉用牛生産などの多様性に富んだ農業が展開されています。
- 管内の施設園芸は、野菜・花き類ともに全国的にも高いシェアを誇り、安定出荷によって市場などから高い信頼を得ているとともに、地域ごとに特色ある施設園芸産地が形成されています。
- 軽種馬生産からの転換や複合化などにより増加傾向にある肉用牛は、素牛生産が多くを占めているものの、「びらとり和牛」や「みついし牛」などの地域を代表するブランドを確立しています。



## 2 現状と課題

- 稲作については、高齢化の進行及び著しい後継者不足により、水田地帯の農家戸数は減少しているため、一戸当たりの平均耕地面積及び作業負担は増加しており、水稻作付面積は草地、飼料作物への転作を主として減少傾向にあります。
- 施設園芸野菜については、近年、新規就農者を一定数確保しており、野菜の作付面積は拡大しています。一方で、地域の人口減少や通年雇用ではないなどの条件から他業種との競合に弱く、雇用人材が慢性的に不足している状況です。
- 畜産（軽種馬、酪農、肉牛）については、就農時における初期投資が多額であることから、新規参入者の確保が進んでおらず、また、一部地域でヨーネ病の発生が続いています。

## 3 地域農業・農村の「めざす姿」

### 未来へつながる、魅力あふれる日高農業

- 現状のおおむね9割以上の水稻作付面積を確保し、将来にわたって農業水利施設等が有効活用され、地域の生産力を維持するとともに、美しい農村風景を形成しています。
- 施設園芸、畜産及び畑作については、現状と同等以上の生産規模（作付面積・生産量・飼養頭数など）が維持され、ブランド力の高い農産物を安定的に供給することで、市場や消費者などからの需要と信頼に応えています。
- スマート農業をはじめとした新技術や新品種の導入が進み、生産力と収益力の高い魅力ある農業を展開しています。
- 地域の実情に応じた新たな就農形態や経営継承によって農業経営者の円滑な世代交代が進み、特色のある地域農業を将来にわたって継承しています。
- 働きやすい魅力のある農業現場で、担い手とともに雇用人材などの担い手を支える人材が生き生きと活躍しています。

## 4 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

- 水田地帯における作付面積の減少を食い止めるべく、地域の農業者による作業の共同化などの効率的な手法について管内外の実践事例の調査分析を行い、横断的な展開を推進します。

### 【事例】

様似町では、複数戸の水稲複合経営者水田部門の農作業に係る共同利用組合を設立、町単補助を活用して農業作業機械を整備し、作業の共同化を実施しています。



- ドローンによる水田防除や園芸施設環境計測・制御システムなどのスマート農業技術をはじめとした新技術や新たな知見の共有や普及を推進します。特にスマート農業については、日高管内でのモデルケースの育成を推進します。
- 「国際的に通用する強い馬づくりと日高の軽種馬生産のめざす姿（軽種馬生産構造改革推進会議）」に基づき、優良な繁殖牝馬及び種牡馬の計画的な更新と導入をはじめ、地域の既存施設を活用した研修会の実施による飼養管理技術や育成調教技術の高度化、新技術の導入による良質な飼料生産などに取り組み、強い馬づくりを推進します。
- 地域内外での雇用人材の掘り起こし対策事例の横断的な展開を図るとともに、他産業と比較しても遜色のない就労環境の実現に向けた取組を推進します。
- 既存の経営資産の有効活用や新規就農者の育成・確保に向け、地域内外の実践事例の調査分析により、地域の実情に合った「ひだか型第三者経営継承」などの手法確立に取り組めます。また、後継者確保のためには、経営の安定及び経営資産の維持が重要であることから、農業保険への加入を促進します。

### 【事例】

施設園芸などの新規就農者を確保できている作目以外においても、地域における第三者経営継承のモデル農家を選定し、円滑な資産継承の仕組みづくりなどを地域関係機関において検討を進めています。

- 家畜伝染病の発生・まん延防止のため、地域の関係機関が連携した実践的な防疫訓練を実施します。また、一部地域で発生しているヨーネ病については、地域関係機関が一体となり感染牛の摘発・とう汰及び発生施設の清掃・消毒などの対策を徹底します。

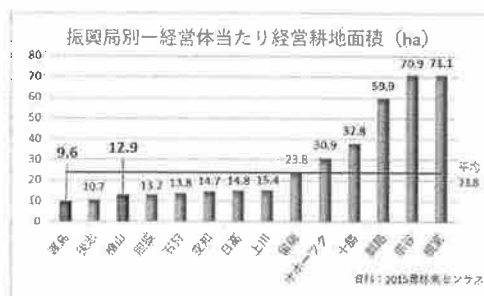
## 1 地域農業の特色

○ 渡島・檜山地域は、温暖な気候を活かし、渡島地域では、稲作、畑作、野菜、果樹、花き、酪農、畜産など殆ど全ての農産物を網羅し、檜山地域では、水稲や馬鈴しょを中心に豆類や野菜、酪農など、地域ごとに特色ある農業が営まれています。



○ 経営規模は全道平均を下回るものの、バラエティに富んだ農産物を生産しており、トマトや長ねぎ、にら、さやえんどう、カーネーションなどは全道有数の産地で、道南生まれの「ふっくりんこ」や渡島・檜山共通の「函館育ち」などの広域ブランド、地理的表示（GI）を取得した「今金男しゃく」などの地域ブランドを有しています。

○ 新幹線や空港、歴史・文化の観光地など、様々な地域資源にも恵まれており、ワイナリーや酒蔵、植物工場など、他業種や国外の資本等の参入が実現しています。



## 2 現状と課題

○ 農家戸数の減少や高齢化の進行に加え、地域の人口減少などを背景に、生産現場での労働力不足が顕著となっており、地域の生産力やブランド力の維持に支障を来すおそれがあります。

○ 様々な農産物が生産されている中、小規模な経営の安定化を図るためには、生産性の向上に加え、付加価値の高い生産販売を進める必要があります。

## 3 地域農業・農村の「めざす姿」

### 小さくとも「キラリと輝く!!」道南農業

○ 農業生産基盤の強化による生産性の向上と担い手への農地の集積が進むとともに、広域的な集出荷体制のもと、野菜や花きなどの高収益作物の生産が拡大しています。

○ スマート農業技術を活用した効率的な農業経営が展開されているとともに、多様な人材や、TMRセンターなどの営農支援組織が安定した農業生産を支えています。

○ 地域の醸造用ぶどうや酒米を活用したワイナリー・酒蔵をはじめ、食や観光、企業や教育・試験研究機関等、様々な分野や組織が連携して地元に着目した取組を進め、地域が活性化しています。

○ 客観的な認証制度の取得などにより、消費者としっかりとした信頼関係を築いており、地域ブランド力を一層高めています。

## 4 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

【基本的な考え方】温暖な気候や多品目栽培など、生産体系の特色を十分に活かし、地域資源や様々な分野と連携した農産物の生産・販売を通じて道南農業の持続的な発展を目指します。

### (1) 農業生産基盤の強化と広域的な生産体制の整備【基盤づくり】

- 大区画化や暗渠排水整備などの農業農村整備事業を計画的に推進します。
- 販路拡大や輸出などを視野に入れ、農業協同組合の施設を核とした生産・流通体系の構築を図ります。



【農業農村整備事業（大区画化）】

### (2) 経営の安定化と多様な担い手の育成・確保【人づくり】

- 次世代への円滑な経営継承や経営体質強化のため、家族経営をはじめとした農業経営体の実情に即した支援を進めます。
- ハウス内の環境制御や水田の水管理システムなど、スマート農業技術を取り入れた省力・効率的な農業生産を積極的に推進します。
- 営農支援組織の体制整備や大規模酪農法人の設立などを進めるとともに、障がい者や外国人材などを含めた多様な人材が活躍できる環境整備と地域の理解醸成に努めます。



【スマート農業（自動環境制御）】



【農福連携（花き選果場）】

### (3) 消費者ニーズを的確に捉えた地域ブランドの確立【ものづくり】

- 食品関連産業や水産業、観光などの他分野との連携強化を進め、新規需要の開拓や消費者ニーズを踏まえた高収益作物の導入、高付加価値化、6次産業化などの取組への総合的な支援を進めます。
- 地産地消や食育、クリーン農業、GAPなどの取組を通じ、道民や消費者の地域農業への理解醸成に努めます。
- 食料消費の変化に適切に対応するとともに、地域農産物の魅力発信を進めます。
- 食と観光が連携した教育旅行や農泊の推進、都市と農村の交流拡大を進めます。



【企業参入（植物工場）】



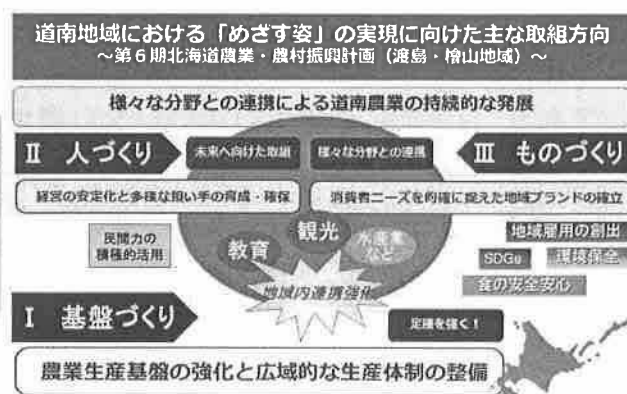
【GI登録（今金男じゃく）】



【農泊・農作業体験（教育旅行の受入）】



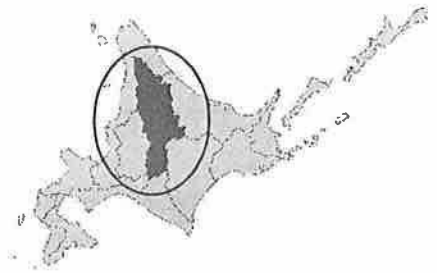
【新たな地域ブランドの創出（醸造用ぶどう栽培）】



# 上川地域

## 1 地域農業の特色

○ 上川地域は、北海道のほぼ中央に位置し、大雪山系や夕張山系などの山々に囲まれ、名寄・上川・富良野の盆地が広がり、それぞれの盆地を流れる天塩川・石狩川・空知川が広大な沃野を形成しています。



○ 南北に224kmと細長く、北部・中部・南部で気候に差があるため、各地域で特色のある農業が展開されています。

【北部地域】 水稻・麦・そば・大豆などの土地利用型作物と、昼夜の寒暖の差を活かしたかぼちゃ・アスパラガス・スイートコーンなどの栽培が盛んです。



【中部地域】 道内有数の良食味米の生産地であり、水稻を中心とした複合経営が営まれています。



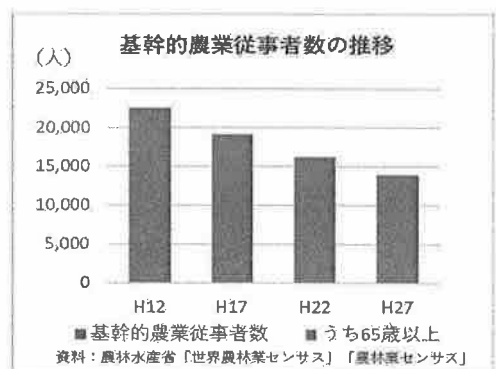
【南部地域】 麦や馬鈴しょ・てん菜などの畑作物をはじめ、たまねぎ・にんじん・メロン・トマトなどの様々な品目が栽培されるとともに、全国的に知名度が高く、観光客の多い美瑛・富良野地域では、直売などが盛んに行われています。



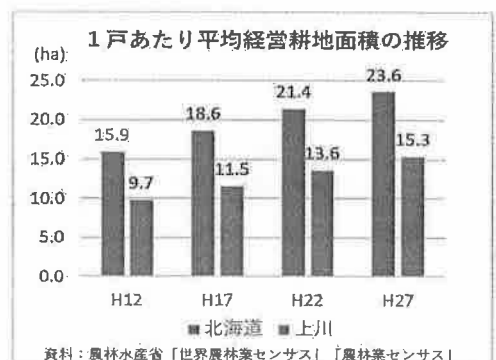
○ 酪農や肉用牛・養豚・養鶏などの様々な畜産が全域で営まれるとともに、めん羊によるまちおこしのほか、地域の特産品を目指すキノアや薬用作物などは、地域振興とも強く結び付いています。

## 2 現状と課題

○ 高齢化や担い手不足に対応するため、様々な取組が行われていますが、担い手の十分な確保には至っていません。また、立地・人口・産業構造といった違いから、地域によっては安定した雇用人材の確保が難しい状況にあります。



○ 一戸当たりの経営面積の増加に伴い、省力的な作物への作付偏重や、輪作体系の乱れによる病虫害発生などがみられます。また、中山間地域等においては、平野部に比べ、基盤整備や農地集約化が遅れており、将来的に引き受け手のいない農地が発生する懸念があります。



○ 農業と接する機会の少ない、地域内外の都市在住者等による農業・農村への理解が十分に進んでいません。また、農村における地域住民と移住者等との交流が十分ではなく、地域コミュニティの活力低下が懸念されています。

### 3 地域農業・農村の「めざす姿」

#### 将来の担い手に選ばれる 輝く上川の農業・農村

- 多様な担い手と人材が地域農業を安定的に支え、魅力的な産業として、農業が地域の他産業とともに発展しています。
- 多様な農産物を生産する特色ある産地を確立し、高い生産性や収益性を実現している活気溢れる地域になっています。
- 地域ぐるみで多くの来訪者と交流し、地域住民が次世代につなげたい宝として上川の農業・農村を誇りに思っています。

### 4 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

#### (1) 担い手と雇用人材の確保

- 行政機関の関係部署や農業団体等が連携し、多様な担い手の確保に努めるとともに、道内外の他地域やサービス・観光業などの他産業、福祉事業所などとの協働、外国人材の受入といった雇用人材確保に向けた取組を推進します。
- 就農トライアルツアーなど、市町村等と連携した担い手確保の取組や、農業高校生向けの出前授業や先進農家の視察などを行うとともに、新規就農者・研修生の経営力向上のための研修会などを実施します。



【高校生を対象に実施した研修会】

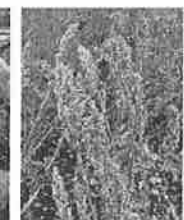
#### (2) 高収益化の推進

- 大区画化などの基盤整備の計画的な推進とともに、RTK-GNSSを活用した農業機械や施設園芸における環境制御設備などの新技術の導入を支援するとともに、共同育苗などの作業の共同化や外部化の取組を推進します。
- 多様な担い手の経営展開方針に合わせて、観光と一体化した多角的な農業経営や、新たな需要を切り拓く新規作物の導入、農産物の価値を更に高める6次産業化の取組を推進します。



【区画整理（左：実施前 右：実施後）】

【高密度播種中苗による移植】



【まちおこしの資源となっているめん羊や新たな特産品を目指すキヌア】

#### (3) 豊かで魅力ある農村の確立

- フードツーリズムや体験・滞在型観光などの推進に係るプロジェクトと連携し、上川地域ならではの魅力を発信するとともに、幅広い世代に対する食農教育を推進します。
- 指導農業士・農業士会や農業法人ネットワークの研修会などを通して、移住者等を含めた地域内の交流促進に向けた機運を醸成します。
- 観光業をはじめ、農業関係者以外も巻き込んだ多様な受入主体による農村ツーリズムの取組を推進します。



【農村ツーリズムの様子】

# 留萌地域

## 1 地域農業の特色

- 留萌地域は、北海道の北西部に位置し、南北130kmにわたり細長く、日本海に注ぐ中小の河川に沿って平坦地が分布しています。
- 土壌や地形、気候など南北で異なる自然条件を活かして、稲作、畑作、野菜、果樹、花き、酪農などバラエティに富んだ農業が営まれています。
- 道内有数の良食味米産地として評価が高いうるち米に加え、もち米は日本最北の産地となっています。また、パスタやパンなど様々な商品が誕生している超強力小麦ルルロン、YES!clean登録の野菜、暑寒別岳の豊かな湧水を活かした北限の果樹、夏の涼しい気候を活かした花き、市場評価の高い肉用牛、飼料基盤に恵まれた草地型酪農など、前菜からデザートまで揃えることができる食材の宝庫となっています。



## 2 現状と課題

- 農家戸数が減少する中、経営規模の拡大が進んでいますが、農業従事者の高齢化と後継者不足、地域人口の減少による労働力不足に歯止めがかからず、生産力の一層の弱体化が懸念されています。
- 小規模で透排水性が悪い農地が多いことから、農産物の安定生産に支障を来しています。
- 深川留萌自動車道の全線開通や道の駅の開業、農業協同組合の広域合併などを契機に、伝えきれなかった留萌の魅力に消費者がふれる機会の一層の拡大が期待されています。



## 3 地域農業・農村の「めざす姿」

### 夢と希望に満ちた「バラエティ豊かな」留萌農業

- 若い担い手が夢と希望を持って活躍し、家族経営を主体に多様な担い手・人材が支え合い、バラエティ豊かな農業を展開しています。
- 多様な農産物が、農業生産基盤の強化により安定的に生産され、省力的で生産性が高い儲かる農業を実現しています。
- 留萌ならではの豊かな食材や恵まれた自然、景観など地域資源を活かした活力と魅力あふれる農業・農村が形成されています。



## 4 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

### (1) 留萌農業を支える多様な担い手・人材の育成・確保

○ Uターン就農や新規参入希望者に向けた情報発信、円滑な就農に向けた地域関係者が連携した受入体制の整備、「るもい農業基礎ゼミナール」による農業知識・技術早期習得の取組などを推進します。

○ 青年農業者組織の活性化に向けた支援や、女性農業者が活躍できる環境づくりを推進します。

○ 農業法人の課題解決や経営発展に向けたセミナーの開催、家族経営体を支えるTMRセンターなど営農支援組織の育成・体質強化の取組を推進します。

○ 遠別農業高校生を対象に出前講座を行い、留萌農業への理解促進と就農意欲を喚起する取組を推進します。

○ 安定的に雇用人材を確保できる仕組みづくりや、農福連携、地域における外国人材の受入環境整備に向けた取組などを推進します。



(るもい農業基礎ゼミナール)

### (2) 収益性の高い魅力ある留萌農業の確立

○ 基幹作物である水稻の基本技術の励行による収量・品質の向上や、直播栽培など低コスト・省力化栽培技術の導入を推進します。

○ 畑作物のほ場の透排水性改善による収量・品質の向上や、野菜、果樹、花きの栽培技術向上に向けた取組を推進します。

○ 計画的な草地更新による植生改善や乳質向上に向けた取組、和牛産地の生産基盤強化に向けた取組を推進します。

○ 高品質で安全・安心な農産物の生産に向けた取組や、自動操舵システムや搾乳ロボットなどスマート農業技術の導入支援、農地の集積・集約化、水田の大区画化や草地整備など計画的な農業生産基盤整備を推進します。



(直進アシスト機能付き田植機)

### (3) 活力と魅力あふれる農業・農村づくり

○ 農産物の加工、直売など6次産業化の取組や、関連産業との連携による高付加価値化の取組を推進します。

○ 留萌の豊かな地域資源を活かした農業体験や教育旅行の受入れなど、都市と農村との交流を推進します。

○ 地場農産物の消費・販路拡大を図り、地元愛を高める地産地消を推進するとともに、留萌農業の情報や魅力を幅広く発信します。

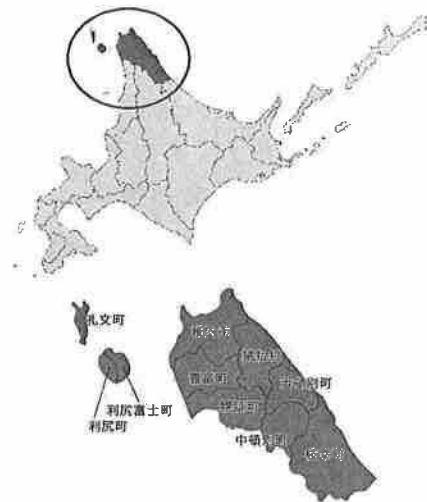


(教育旅行による農業体験)

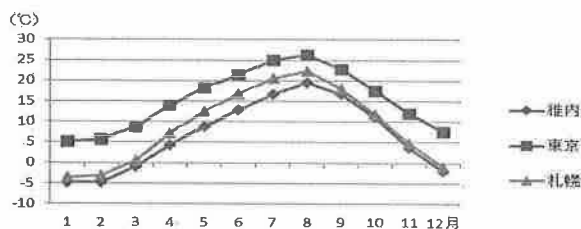
# 宗谷地域

## 1 地域農業の特色

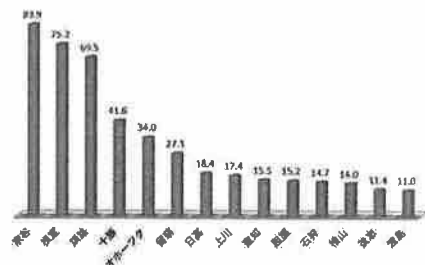
- 宗谷地域は、昭和36年（1961年）に制定された農業基本法において国が打ち出した農業構造改革施策により、乳牛の多頭飼育による規模拡大が急速に進められ、酪農専業地帯への道を歩んできました。
- 管内は、夏場でも平均気温が20°Cを超えないなど、年間を通じて気候が冷涼で、道内でも特に酪農に適した地域であり、良質な自給飼料を生産し、広大な牧草地を活かした草地型酪農を展開しています。
- 農業経営体の9割以上が法人化していない個人経営体となっていますが、近年では、畜産クラスター事業などを活用し、地域の生産基盤を支える大規模酪農経営を設立する動きも見受けられます。



宗谷総合振興局管内図



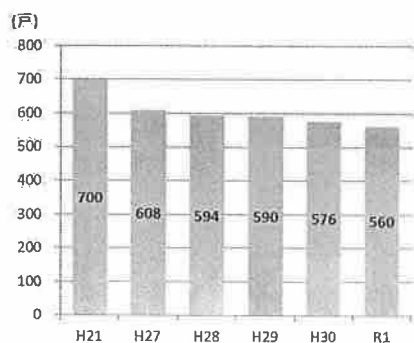
平均気温の推移 気象庁過去30年データ平均



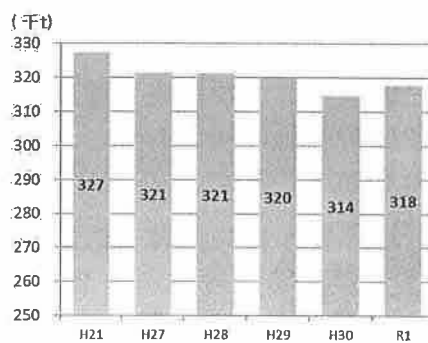
振興局別1経営体当たり耕地面積(ha)  
2015 農林業センサス（経営耕地総面積／経営体数）

## 2 現状と課題

- 近年、農業従事者の高齢化による離農が進んでおり、生乳生産量が減少傾向となっています。
- 草地の基盤整備や植生改善、乳牛の能力を最大限に発揮する飼養管理の徹底など、地域の強みを活かした生産性向上への取組が十分に進んでおらず、また、経営継続に向けた草地や施設・機械への投資が進んでいない点が課題となっています。
- 人口の減少に伴い、地域産業を担う人材の確保が難しくなっていると同時に、地域コミュニティの活力低下が懸念されています。



宗谷管内のホクレン生乳出荷戸数 (ホクレン調べ)



宗谷管内のホクレン生乳受託乳量 (ホクレン調べ)

### 3 地域農業・農村の「めざす姿」

“最北”の強みを活かし、未来を担う人材が活躍する宗谷酪農

- 小規模でも低コストで経営効率が高い経営や、大型化により生産効率を高めた経営など、多様な経営体が、宗谷の強みである冷涼な気候と広大な牧草地を最大限活用した、生産性の高い酪農を展開しています。
- 活力ある地域コミュニティと、働きやすく、住みやすい環境の中で、地域の未来を担う人材が活躍しています。


### 4 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

#### (1) 多様な経営体の生産性向上をめざす

- 草地整備事業や畜産クラスター事業、畜産ICT事業などの補助事業を有効的に活用し、それぞれの経営方針に適した草地整備や牛舎等の施設整備、機械導入を推進します。
- 草地の生産性向上に向けた追播などによる草地更新の促進や、酪農試験場天北支場と連携した草地の植生改善、乳牛の能力を最大限に発揮できる飼養環境の改善などに取り組みます。
- コントラクターやTMRセンター、公共牧場など、地域の営農支援組織の充実を図り、飼料生産や哺育・育成の外部化・効率化を進めます。

**[多様な経営体による生乳生産]**

管内の農業経営体は家族経営が主体となっていますが、小・中規模であっても、良質な自給飼料の生産や、乳牛改良による高能力な牛づくりなどで高い生産性・収益性を実現している経営体もあれば、地域の核となる農業法人が、大規模施設を整備し地域の生乳生産を担うとともに、牧草収穫などの飼料生産を受託し周辺農家の生産を支えている経営体もあるなど、管内の生乳生産は多様な経営体によって支えられています。




畜産クラスター事業を活用して整備された牛舎

#### (2) 地域と未来を担う人材が活躍する酪農地域をめざす

- 新規就農者を確保・育成するため、大学などでの就農セミナーの実施や、就農イベントなどへの出展・参画を行うとともに、酪農経営における知識や技術力を高める指導や研修を実施します。
- 農泊や農家レストランなど、農村地域の様々な魅力を伝える取組を推進するとともに、新たな人と経済の流れにつながる都市と農村の交流活動を促進します。
- 働きやすく活気があり、住みやすい酪農地域となるように、研修機会などを通じた農業者間の交流促進を図り、地域のコミュニティ機能を高めます。

**[地域の担い手が酪農を学び交流を深める]**

酪農の担い手を育成するため、管内在住の新規就農者や若手農業者を対象に、酪農の基礎知識や技術を学ぶ「SOYAルーキーズカレッジ」を毎年開催し、技術力の向上と交流の輪を広げています。



SOYA ルーキーズカレッジの開催風景

# オホーツク地域

## 1 地域農業の特色

- オホーツク地域は、小麦やてん菜、馬鈴しょを主体とする畑作や全国一の生産量を誇るたまねぎ、酪農・畜産など、広大な土地資源を活用した大規模で生産性の高い農業が展開されており、農業産出額は十勝に次いで第2位となっています。
- オホーツク海と280kmの海岸線で面し、地域によって気候や土壌条件が異なり、北部では酪農、南部では畑作や野菜を中心とした経営が行われています。農作物の作付面積は、小麦、てん菜、馬鈴しょ（以下「畑作3品」という。）の順に多く、畑作物作付面積の8割以上を占め、畑作3品を主体とした輪作が行われています。



## 2 現状と課題

- 農家戸数は、近年大きく減少する中、新規参入者は年間数名程度で推移するなど、今後も減少が懸念されており、また、急速な経営規模の拡大などにより、労働力不足が深刻になっています。
- 畑作3品を主体とした経営規模の拡大が進む中、省力化が可能な秋まき小麦の作付けが増加し、小麦の連作やてん菜、馬鈴しょの交互作など輪作体系に歪みが生じるとともに、重要病害虫であるジャガイモシストセンチュウ類などの発生もみられています。

## 3 地域農業・農村の「めざす姿」

オホーツクの広大な大地で“クール”に農業



※クール：かっこいい、素晴らしい、素敵な

- スマート農業技術を駆使した、大規模で生産性が高く、労働負担の少ない農業生産体系が確立し、持続可能で先進的な農業が展開されています。
- コントラクター・TMRセンターなどの営農支援組織や協業型法人経営が、経営体や地域を支える高度な支援システムが確立しています。
- 新規参入者を含めた意欲の高い担い手、雇用従事者、障がい者、外国人材など多様な人材が生き活きと活躍できる環境が整備されています。
- 農業と他産業が高度に結び付いた、オホーツクの魅力ある食関連産業が確立し、地域経済を牽引するとともに、道内外の都市住民など消費者を惹きつけるオホーツクブランドが定着しています。

## 4 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

### ■ 基本的な考え方

- 【畑作】
- ・ 省力化に加え、収量や品質の向上、コスト低減に繋がるスマート農業技術、コントラクターを活用した効率的かつ収益性の高い大規模畑作農業の展開
  - ・ 畑作3品に加えて豆類等の作付拡大による適正な輪作体系の確立
  - ・ ジャガイモシストセンチュウ類対策などの確立
- 【畜産】
- ・ 家族経営を中心とした収益性の高い畜産経営の展開
  - ・ コントラクターやTMRセンター、哺育育成センター等の営農支援組織の育成強化による労働負担の軽減
  - ・ 搾乳ロボットや発情発見装置などスマート農業技術の活用による省力化

### (1) 持続可能で先進的な農業の展開

- 秋まき小麦、てん菜、馬鈴しょに加え、第4の作物として豆類の振興など適正な輪作体系の確立に取り組みます。

#### ◆豆類の振興とビーンズファクトリーの取組

オホーツク管内の豆の調製を一元化するオホーツクビーンズファクトリー(大空町(H30))が完成し、品質の安定化・均質化によるオホーツク産豆類のブランド化、適正な輪作体系の確立に向けた豆類の作付けを推進。



- ジャガイモシストセンチュウ類やコムギなまぐさ黒穂病などの早期発見・まん延防止対策などに管内関係者が一体となって取り組みます。
- 省力化に加え、収量や品質等の向上、コスト低減に繋がるスマート農業技術など先進技術の幅広で効果的な導入を進めます。
- 農作物の収量や品質、農作業効率の向上など農業生産を支える農業生産基盤の整備に計画的に取り組みます。

### (2) 経営体を支えるシステムの推進

- 家族経営など経営体を支える営農支援組織の育成強化などに取り組みます。

#### ◆営農支援組織強化の取組(加工馬鈴しょコントラ事業)

きたみらい農業協同組合では、農業者の労働負担の軽減や輪作体系の適正化に向け、ポテトハーベスターなどを導入し、R2から加工馬鈴しょの収穫などをコントラクター事業として実施。



### (3) オホーツクでの新規就農者や農業従事希望者など多様な人材の確保・定着

- オホーツク管内が一体となった新規就農等のPRの実施や、受入体制の構築により、新規参入希望者の受入から就農までの支援を一体的に取り組みます。
- 農業系大学や高校と連携して学生の農業への理解の促進とともに、就農や農業関連産業への就業意欲の向上に取り組みます。
- 農業生産や選果場など関連施設を支える多様な人材の確保・定着に取り組みます。

#### ◆研修機能付き生産法人の立ち上げ

北オホーツク農業協同組合出資型法人(株)Farm to-moが、R2に研修機能を備えた生産牧場の整備を完了し、TMRセンターやコントラクターと連携して、新規就農者育成や地域の生乳生産維持拡大に向けた取組を開始。



### (4) オホーツク農業のブランド力向上

- オホーツクの高品質で安全・安心な地場農産物の付加価値向上を図り、オホーツク農業の魅力の発信と、ブランド力の向上に取り組みます。

# 十勝地域

## 1 地域農業の特色

- 十勝地域は、本道の耕地面積の22.2%（H30）を占める広大な大地を基礎として、開拓以来130年に及ぶ先人の努力と土地改良事業により実現された高い生産性を活かし、耕畜両部門ともに高水準の生産を実現し、管内の農業協同組合販売取扱高（R1概算）は3,549億円（うち耕種部門39.5%、畜産部門60.5%）に達するなど、日本最大の農業地帯として発展しており、十勝の安全・安心な食は、国内外から高い評価を得ています。
- 十勝農業を核として多様な産業が生み出す経済波及効果は約2.8兆円（H30）となっており、その農業を支えるコントラクターなどの営農支援体制や十勝に集積する農業専門の教育機関から輩出される優れた人材が地域で活躍するとともに、産学官金が連携した生産技術の高度化や管内市町村が連携した「フードバレー十勝」など、十勝が一体となって様々な取組が進められています。



## 2 現状と課題

- 人口減少により、農業や関連産業、営農支援組織の労働力不足が一層深刻になるとともに、農村インフラや地域コミュニティの脆弱化が懸念されています。
- 経営の規模拡大の進行により、省力化技術の開発・導入が急速に進展する一方、家畜ふん尿処理や病害虫対策など大規模化に伴うリスクの顕在化が懸念されています。
- 国際化の進展や災害の頻発、コロナ禍による経済への影響や生活様式の変容など、農業・農村を取り巻く環境の変化への対応が求められています。

## 3 地域農業・農村の「めざす姿」



### 日本の食料生産を支え、地域を豊かにする農業王国十勝

開拓精神のもと官民が一体となって築き上げてきた日本の食料基地「十勝」を今後とも発展・継承するため、常に先駆的な取組を進め、十勝の魅力と強みを最大限活かし、次世代を担う多様な人材の活躍と農業・農村の持つ多様な可能性の発揮により、農業者と地域住民が農業の生み出す豊かさを分かち合いながら、日本農業を牽引しています。

#### 具体的な将来像

- 農業が「あこがれの職業」となり、家族経営をはじめとした担い手や、地域農業を支える多様な人材がいきいきと活躍しています。
- 恵まれた大地を活かし、高品質な食料を安定的に生産・供給する拠点が形成されています。
- 安全・安心な食を提供する「十勝」ブランドが、国内外で認められ続けています。
- 常に環境変化に対応した新しい技術の導入に挑戦し、先進的で高度な技術のもと農業が次世代の先進産業として環境と調和しながら発展をしています。

## 4 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

めざす姿	取組の方向性
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">日本の食料生産を支え、地域を豊かにする農業王国十勝</p> <p>多様な人材が活躍する農業・農村</p>	<p>【多様な人材の活躍】</p> <p>○ 道立農業大学校など農業専門の教育機関と連携し就農・就業支援を進めるとともに、農業法人や関連産業、営農支援組織などの就業環境を整備し魅力ある就職先として「選ばれる農業」となるよう取組を推進するほか、自衛隊など異業種からの人材確保に向けた取組や農福連携などを促進し、農業・農村で多様な人材が持続的に活躍できる環境づくりを進めます。</p> <div style="text-align: right;">  <p>退職予定自衛官向け インターンシップ</p> </div>
<p>安定的な食料の生産・供給拠点の形成</p>	<p>【食の拠点確立】</p> <p>○ これまでに整備された近代的な生産施設に加え、ほ場の大区画化や暗渠排水、畑地かんがいなどの土地基盤整備の推進、貯蔵・流通体制の強化とともに、耕畜連携による土づくりや農業研究機関等と連携した生産技術の向上、安全・安心な食の提供などを通じて、日本の食料供給基地としての安定的な生産・供給拠点の形成を進めます。</p>
<p>ブランド力強化や海外を視野に入れた販路拡大</p>	<p>○ 大規模な加工・貯蔵施設をはじめ、道内唯一の北米・EU向け食肉加工処理施設などを活かした輸出拡大や、産地一体となった6次産業化など付加価値向上の取組を進め、広大な自然を背景とした安全・安心な食を供給する「十勝」を世界に通用するブランドとする地域一丸となった取組を強化していきます。</p>
<p>新たな価値を生み出す科学技術等の活用</p>	<p>【次世代先進産業の構築】</p> <p>○ 生産性の高い土地基盤等を活かしたICTやロボットなどの先端技術の導入を促進するとともに、畜産経営の大規模化に対応したバイオマス利活用と耕種経営との連携強化を推進し、農業関係者が一体となって先端技術を活用した持続可能な生産活動を進めます。</p> <div style="text-align: right;">  <p>高校生スマート農業実践講座</p> </div>
<p><b>推 進 体 制</b></p>	
<p>「十勝農業・農村施策推進会議」において「めざす姿」の周知や中間報告などを通じて地域からの意見を聴きながら計画を推進するとともに、課題解決に向けては「十勝地域農業技術支援会議」などと連携して取り組みます。</p>	

## 1 地域農業の特色

- 釧路・根室地域は、冷涼な気候と広大な土地を活かした我が国最大の草地型酪農地帯であり、農業産出額の約9割を酪農が占めています。
- また、肉用素牛生産を主体とする畜産が行われているほか、内陸部では小麦、てん菜、馬鈴しょを主体に、そば、大根、ブロッコリーなども生産されています。釧路管内においては近年、企業による施設園芸への参入も増えています。
- 地域の強みとして、釧路港（バルク港）や高速・高規格道などの物流ネットワークを有し、生乳の道外移出の拠点となるほか、多数の乳業や飼料工場が立地しており、牛乳製品の加工施設の新設・拡張や、黒毛・交雑種の肥育による肉用牛生産の産地化で、食や観光のブランド化を目指す動きもあります。

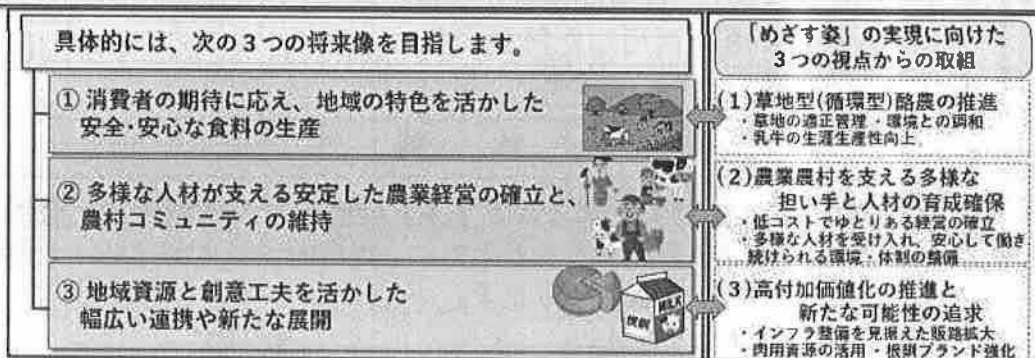


## 2 現状と課題

- 酪農については、近年の乳価上昇により農家経営は安定しつつありますが、農家戸数は毎年減少しており、規模拡大志向農家による離農者の生産基盤引受けについても限界が懸念されています。このため、草地など生産基盤の維持や、農村人口減少下でのコミュニティの存続が重要な課題となっています。
- また、省力化機械などの導入により労働力不足解消に取り組む経営がある一方で、乳価水準の動向や飼料価格の変動、国際化の進展などが農業者の新規投資の不安要素となっており、良質な飼料生産など外部の価格変動に左右されない酪農経営の確立が求められています。
- 肉用牛生産については、乳用種のほか、和牛精液や受精卵移植などを活用した黒毛和種・交雑種の飼育が広がっており、更なる増頭や肥育部門の拡大が求められています。
- 近年、地震や台風などの自然災害が増加しており、新型コロナウイルスへの対応も含め、災害などへの対応が必要となっています。

## 3 地域農業・農村の「めざす姿」

我が国の酪農を牽引し続け、次の世代が夢をもつことのできる農業・農村



根拠地域では、平成27年2月に管内市町村長・農業協同組合長が「根拠酪農ビジョン(以下、ビジョン)」を策定し、農業団体と市町村、振興局などが連携し、ビジョンの将来像の実現に向けた取組を展開しています。「めざす姿」は、ビジョンの内容を基本に、近年の新たな動きや課題などを踏まえ、道として整理したもので、今後、関係団体と一体となって取組を推進していきます。



## 4 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

### (1) 草地型（循環型）酪農の推進

- 草地の適正管理や草地整備改良事業の計画的な実施を推進します。
- 生涯生産性の向上に向けた乳牛などの遺伝的改良や疾病軽減対策を推進します。
- 家畜排せつ物を適切に処理し、有機質肥料として農地に還元し、適切な肥培管理や臭気の軽減を行うなど、環境や家畜にもやさしい農業経営を推進します。

#### 【事例】植生改善プロジェクトの取組（弟子屈町）

町内A地区では、草地の6割が裸地か雑草となるなど、植生改善が課題だったことから、農業協同組合、町、農業改良普及センターが連携し、植生の実態把握や更新計画樹立ソフトの開発を行うとともに、優良な草地管理技術の地区内での普及などの取組を展開しました。その結果、草地更新率が5%から9%、草地維持年数が5年から7年に改善し、地区内農家の経営改善にも寄与しています。



### (2) 農業農村を支える多様な担い手と人材の育成確保

- 意欲ある農業者の規模拡大、中小規模の家族経営の維持、企業による施設園芸・肉用牛等への参入など、ビジョンで掲げる多様な担い手の育成確保を推進します。
- 後継者の育成や配偶者の確保に取り組みます。また、女性・高齢者がより活躍できる環境を整備します。
- 搾乳ロボットや牛群管理システムなどのスマート農業技術の導入や営農支援組織の育成・強化により、低コストでゆとりある農業経営を確立します。
- 新規参入者の広域的な受入体制を整備し、地域での受入・定着の促進や円滑な第三者経営継承に向けた相談員の育成などの仕組みづくりを推進します。
- 外国人材を含めた雇用人材が安心して働き続けられる環境を整備します。
- 災害などの発生に備えた組織継続体制（BCP）の構築と営農支援体制を確立します。

#### 【事例】子育て支援施設「えみふる」の取組（中標津町）

計根別地区には保育園がなく、酪農へ新規参入した地縁のない夫婦にとって、子育て支援が喫緊の課題だったことから、農業協同組合が町やNPO法人などと連携し、児童館と乳幼児一時預かりを一元的に行う町立施設「えみふる」を開設しました。利用農家から、子育てで不安が解消されたとの声が寄せられるなど、地域で欠かせない存在として役割を發揮しています。



### (3) 高付加価値化の推進と新たな可能性の追求

- 6次産業化など地域の創意工夫を活かした取組や、野菜・果樹など高収益作物の導入を推進します。また、牛乳乳製品や肉用牛の加工品等による地域ブランド力の強化などを進めます。
- 受精卵移植などによる和牛生産拡大や育成・肥育の飼養管理技術の向上を図ります。
- 釧路港や高速・高規格道など地域インフラを活用し、各地域の農村景観や食を活かした根釧地域の「食と観光」の魅力を発信します。

#### 【事例】(株)べっかい乳業興社の取組（別海町）

町と農業協同組合が出資して設立された同社では、牛乳やヨーグルト、バター、チーズなどの乳製品を製造しています。「べっかい」ブランドを確立し、ベトナム等海外にアイスクリームを輸出するなど、国内外に販路を拡大しています。



## 第5章 計画の推進

### 1 推進体制

道では、行財政改革により行政サービスの質の維持を図りながら、限られた行財政資源を最大限に活用して、農業・農村の振興に関する施策を総合的・計画的に推進します。

また、計画の推進に当たっては、「北海道総合計画」との一体的な推進を図る観点はもとより、多様化・高度化する行政ニーズや新たな政策課題に対応するため、庁内部局との横断的な連携を図りながら、効率的で実効性のある施策を推進します。

### 2 市町村や関係団体等との連携・協働

この計画の推進に当たっては、地域の創意と主体性が存分に発揮できる社会を目指し、市町村への事務・権限の移譲の推進などを踏まえ、農業者をはじめ道民の主体的な取組を基本に、市町村をはじめ農業団体や他産業関係者、消費者などが、それぞれの役割に応じながら、創意と工夫による連携・協働の取組を推進することとしています。

### 3 進行管理

この計画の推進管理に当たっては、毎年度の政策評価を通じて、施策の推進状況を点検・評価し、その結果を踏まえた見直しや改善などを行い、施策を効果的・効率的に推進します。

また、この計画に基づき実施した農業・農村の振興に関する施策については、条例第4条に基づき議会に提出する年次報告により公表します。

なお、社会経済情勢の変化などにより、この計画の推進に大きな影響がある場合には、北海道農業・農村振興審議会の意見を聴いて、計画の見直しなど必要な措置を行うこととします。